

# 社会教育支援 SNS の活用例

## A practical use example of SNS for the social education support

○松田志穂 (TwosTep) 小高守道 (株式会社ビー・ストリーム)  
渡辺喜道 (山梨大学)

Shiho MATSUDA, TwosTep, 1818-1 Nakashimojo, Kai-shi, Yamanashi  
Morimichi ODAKA, B-Stream Corporation, 3-26-8 Hacchoubori, Chuo-ku, Tokyo  
Yoshimichi WATANABE, University of Yamanashi, 4-3-11 Takeda, Kofu-shi, Yamanashi

**Key Words** : Social Networking Service, community, welfare network, symbiosis

### 1. 緒言

社会教育関連の人的ネットワークと情報ネットワークを活かすことを目標にシステム開発を行い、SNS (Social Networking Service) を活用したコミュニティ型 Web サイトの運用を開始した。山梨県内の子育て環境向上を目指し、行政－民間－学校－地域－家庭それぞれの立場の「問題と課題」を地域で共有することを可能とする SNS 型サイト「やまなし子育て環境サポートネットワーク TwosTep-net」の活用例と効果について述べる。

### 2. 背景と経緯

山梨県は地形と人口比の問題から、生活圏の移動手段はほとんどが自家用車であり、近所の会話のなかで日常的に生活の情報が十分に行き渡ることが難しいという特徴がある。近年、市町村合併と同時期に核家族形態の新世帯が増加した。これらの地域の変動に実際の自治会機能が追いついていけないという問題を抱えている地域も少なくない。また、世代間のコミュニケーション形態の差の問題は、さらに情報伝達を複雑化させていると想定できる。

この中で、地域に密着することが特に必要とされる子育て関連情報の共有化が急務であると考えた。子育て世代の日常的なツールになったインターネットを用いて、共働き世帯や父親も視野にいたれた情報の共有化を試行錯誤することとなった。

ワークライフバランスや父親支援もかつてよりも注目されるようになってきた。そして、子育て・社会教育は声をあげた所だけに支援をすれば間に合うのではなく、地域ぐるみで取り組むべき課題であることが周知されつつある。学校、市町村、支援グループ等、各々の立場で行われている様々な取組を、具体的な連携にどうやって結びつけていくのかが地域の当面の重要課題となっている。そして、さらには地域住民と行政との協力により、実際のまちづくりへ反映させてい

くことが望まれている。文部科学省<sup>①</sup>や厚生労働省<sup>②</sup>ではここ数年様々な取組がなされているが、地域の現状にあった問題に対応する具体策とするためには、地域からの声が欠かせないと考えた。問題の糸口をつかむために、情報を発信するためだけではなく、地域住民の声を収集できる機能を兼ね備えることが可能となる SNS 形式のサイトが望ましいと考え、半年間の試行サイトを上げたうえで実際の運用サイトを開発した。

### 3. 実際の活用例と工夫した点

本サイトの全体構造において以下の点を工夫した。

- ① ターゲットを子育て中の母親だけに絞らずに地域の大人を対象とした。
- ② 地域住民の反響が見えやすいようにコンテンツ毎にユーザが自由に投稿できる仕組みを取り入れた。
- ③ 良質な情報発信、維持できるように情報を投稿できるのは登録ユーザと既に信頼関係のある協働会員グループのみに絞り込んだ。
- ④ コンテンツアップが、登録ユーザや協会の会員の手元からも簡単にできるようにブログ形式の入力方法を取り入れた。各ページの紹介を下記に示す。

[1] トップページ <http://www.twostep-y.net/>



図 1. 本サイトトップページ

トピックス、ニュース、お知らせ、スタッフブログの4コンテンツで構成した。

サイト内の全コンテンツから注目度の高い新コンテンツが直感的にわかるように関連する画像を用いて紹介し、ワンクリックで詳細ページへリンクする。

#### [2] おでかけ ページ

子育て関連イベント情報が一月一頁のカレンダー形式で見ることができ、ワンクリックで詳細ページへリンクする。

#### [3] トピックス ページ

地域の活動を取材し、ストリーミング映像または画像付きで紹介する。

#### [4] ニュース ページ

子育て・共働き関連の全国・県内のニュースを抜粋して紹介する。

#### [5] みんなの声 ページ

ユーザからの投稿やユーザ同士の情報共有の場を提供する。



図2. みんなの声 ページ

#### [6] 便利リンク

ユーザが紹介したいサイトへのリンクを張り、他のユーザとリンク情報共有の場を提供する。

#### [7] 協働会員グループ

本サイトの運営に協力しているグループを紹介する。

### 4. サイトの効果測定

運用の状態を随時把握するために、2つのサイトの効果測定の仕組みを取り入れた。1つ目は、本サイトのサイト管理者権限でログインした場合、各コンテンツのプレビュー数が表示される仕組み。2つ目はGoogle Analytics サービスを利用してアクセス先の動向を測る仕組み(図3)。これらの併用により、ユーザの関心度の高いコンテンツやアクセスの高い曜日等の効果測定が可能となっている。これまでの分析結果によると、アクセスの多いユーザは、行政関係者が約4割、支援活動関連者4割、主婦が1割、企業等その他1割となっている。



図3. 本サイト効果測定 Google Analytics の画面

### 5. 今後の課題

本サイトの運用を本格的に開始して9ヶ月が経過した。これまでの実績を踏まえて下記3つの今後の課題を掲げた。

#### [1] 一般世帯のユーザの開拓

始めの頃は認知度が低く、運用側からコンテンツ取材依頼をかけなくてはならなかった。現在では、定期的に大学や民間の活動グループから声がかかるようになってきている。アクセスユーザ分析の結果からもわかるように、行政や社会教育関係者の認知度は高まっているが、一般世帯の参加が少ないのが現状である。本来は、行政や企業側の個人が地域の人として参加できる雰囲気づくりが望まれる。

#### [2] 投稿数の促進

関係者からの投稿があるが、一般世帯の応答が少ないために投稿のページが盛り上がらない。システムの試用段階を終え実際の運用がスタートしたが、実際に活用して欲しい一般世帯ユーザの参加が足りないことが大きな原因であると考えている。[1]の課題と同時に投稿数が増加できるように本サイトの認知度を一層高めていくことが必要とされている。

#### [3] 人的ネットワークへの展開

主要な関連グループへの認知度が高まってきている。次段階として、情報ネットワークから人的ネットワークへの展開が必要とされている。本サイトを利用して、定期的に顔を合わせた環境で情報交換する場を設定していくことを計画している。

### 参考文献

- (1) [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/katei/03040901/001.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/katei/03040901/001.htm), 地域 SNS を活用した家庭教育支援に係る調査研究, 文部科学省。
- (2) <http://www8.cao.go.jp/wlb/index.html>, カエル! ジャパン, 厚生労働省。

